



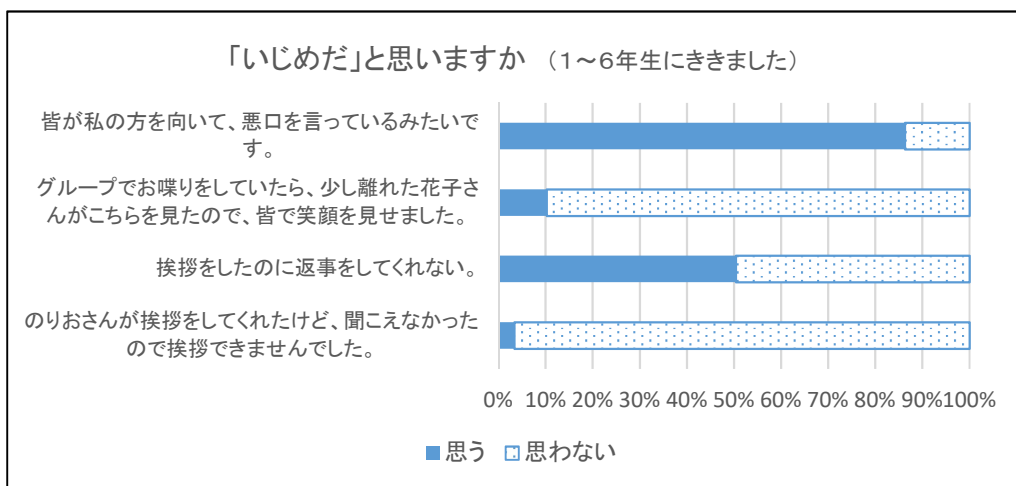
ひと 他者とかわるということ

http→https になりました！

校長 三村 美延

昨年6月の講話朝会で全児童を前に「しあわせのバケツ」(TOブックス、キャロル・マックラウド著)の話をしました。世界中のどんな人も心に「しあわせのバケツ」を持っていて、そのバケツは人が喜ぶことをするといっぱいになり、逆に嫌がることをすると空になってしまう、というお話です。それから半年。子どもたちにアンケートをとりました。「次のことは『いじめ』だと思いますか？」

他人の気持ちを想像することはとても難しいことです。そのことは、子どもたちのアンケート結果にも現れています。返事をしてくれないと「いじめ」だと思う。でも、聞こえなくて返事ができないのは「い



じめ」ではない。「立場」が替われば物事の「見え方」も違ってきます。「立場を替える」「視点を替える」ということが大切になります。

学校では、道徳や「人間関係プログラム」(3年生以上)等の授業で、相手の気持ちを考える活動を行っています。また、機会あるごとに、相互理解のための対話を行っています。2月の生活目標は「相手の気持ちを考えて行動しよう」です。各学級の実態に応じた取組を展開していきます。

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、私たちの生活にバーチャルな世界が浸透してきました。コンピュータシステム上にCG(コンピュータ・グラフィック)で3次元の仮想空間を作り、そこに世界中の人々がアバターと呼ばれる自分の分身で登場し、イベントに参加したり買い物をしたりするのは、たいへん便利な世界ですが、似た趣味嗜好をもつ人たちが集まるバーチャル世界では、自分と異なる価値観をもつ人との交流が少なくなります。仮想世界が広がっていくこれからの時代を現実社会で豊かに生きていくためには、多様な価値観をもつ人々が生活する社会の中での実経験、実体験がいつそう求められます。

1月になり、新型コロナウイルス感染症の感染が全国的に急拡大しています。本校においても、いっそうの感染対策を行い、他者との接触を極力減らしているところです。「お友達に密着しない」「大きな声を出さない」等の影響で、子どもたちは何かしらのストレスを抱えていると思います。

どうぞご家庭ではスキンシップを含めたコミュニケーションをたくさんとっていただき、バーチャルでは得られない抱きしめられたときの安心感や肌のぬくもり等を体全体で味わわせてあげてください。そして、私たち大人も心と体の健康に留意し、笑顔で乗り切ってまいりましょう。